

ハンドブック
ワンポイント
レッスン

知っておきたい規則とルール

Question

地方の協会理事をつとめているものです。さてソフトテニスにおける「振動止め」の使用についての可・否についてご教示いただきたく存じます。

ハンドブックには【解説4】2.「打球面に異物を取り付ける等で、ボールに特別な影響が与えられる場合は、そのラケットの使用を認めない。判断はレフェリーが行う。」

それ以上の記載はなく、審判により判断が分かれるものとも取れます。

連盟のwebに掲載されている「ハンドブック ワンポイントレッスン」も一通り拝読したつもりですが、記載項目が見つからず、判断に困っております。「振動止め」について日本連盟としての見解をお示しいただければと存じます。

Answer

振動止めについては「打球面に異物を取り付ける等」に該当するものとしており、競技大会では使用を認めないこととしています。

日本連盟審判委員会では、振動止めについては「打球面に異物を取り付ける等」に該当するものとしており競技会では使用を認めないこととしております（ジュニア審判マニュアルには記載）。ところで振動止めがもし外れて直接ネットに触ればネットタッチ、また、相手コートに飛んでいたり、直接落ちた場合はインターフェアとなります。

競技規則第14条（ラケット）及び【解説4】の1にラケットやストリングについての規程があり、第1に「(公財) 日本ソフトテニス連盟でラケットを公認し、公認マークを貼紙したラケットであること」です。公認マークの付いていないラケットは市販されていないと思いますが万一付いていないラケットは大会では使用で

きません。ストリングについては日本連盟公認メーカーの製品を張ることになっています。ストリングは現在スポーツ店で機械によって張るため強度が一定に張り上がっていますが、過去には選手がストリングを手で張っていました。今は見受けることもありませんが、当時張りがゆるくてストリングの張りを強くするため打球面の下方のストリングを補強したり、また、打球に変化を起こさせるように打球面に斜めにストリングを足したりすることがありましたがそのようなことはいけません。次に「ラケットは両面のプレー特性が同一になるように設計され、フレームにストリングを張ったものとし、打球面は平面でなければならない。この場合においてストリングの張り上がり状態はおおむね

均一でなければならない。」ことになっていま
すのでラケットの先端に重りを取り付けたりし
てはいけません。

従って、ラケットのフレームにストリングを
機械で張る（強度）ため、それ以外に特別な加
工や細工をしてはいけませんので注意してくだ
さい。

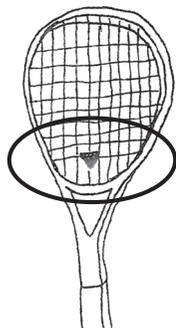
【関連規則】

競技規則第14条（ラケット）、[解説4]

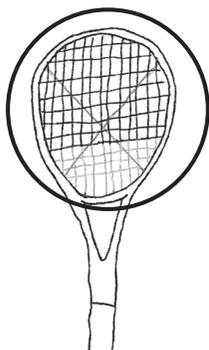
ジュニア審判マニュアル

競技規則について

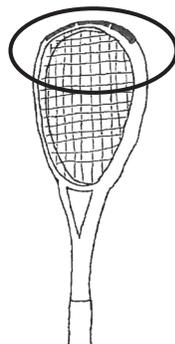
3. ラケット



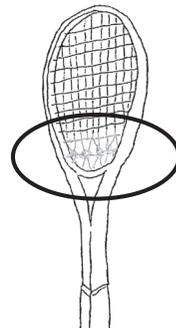
× 振動止めをつけては
いけません



× ストリングを斜めに
足して張ってはい
けません



× ラケット上部に
重りをつけては
いけません



× ストリングの下側を
強度を増すために補
強してはいけません